

平成31年度 授業実施計画書

学 年	1 年
教科名	保 健 体 育
科目名	体 育 ( 男 子 )
単 位 数	3
必修選択区分	必 修
使用教科書	現代高等保健体育
使用副教材	なし

組	科目担当者
全クラス	

学習の目標	1 学期	中学校で学んだ事を基盤にして、運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
	2 学期	自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
	3 学期	健康、安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育て、次年度の学習の基礎とする。
担当者からのコメント	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力の育成、体力の向上を目標とする基盤づくりを目指す。	

成績評価	観点	運動への関心・意欲・態度：授業への取り組み、出席状況、 運動の技能：各種目でのスキルの到達度 運動の知識・理解：各種目の技術の特性・構造やルールを理解度、安全に対する配慮 運動への思考・判断：自己の能力に応じた課題設定、課題解決、練習の工夫
	方法	担当教諭によるスキルテスト、出席状況、授業への取り組みなどを総合的に評価する。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	18	・器械運動 ・剣道または柔道 ・陸上競技
期末		18	・器械運動 ・剣道または柔道 ・陸上競技 ・水泳	
2 学期	中間	21	・ソフトボール ・サッカー ・バドミントン または テニス ・水泳	・武道は入学時に各自選択し、クラス分けをする。年間を通じて行なう。
	期末	21	・ソフトボール ・サッカー ・バドミントン または テニス ・水泳	
3 学期	学 年 末	27	・持久走(時間走、2000m走)	・持久走は校内敷地を走る。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	1 年
教科名	保 健 体 育
科目名	体 育 ( 女 子 )
単 位 数	3
必修選択区分	必 修
使用教科書	現代高等保健体育
使用副教材	なし

組	科目担当者
全クラス	

学習の目標	1 学期	中学校で学んだ事を基盤にして、運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
	2 学期	自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
	3 学期	健康、安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育て、次年度の学習の基礎とする。
担当者からのコメント	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力の育成、体力の向上を目標とする基盤づくりを目指す。	

成績評価	観点	運動への関心・意欲・態度：授業への取り組み、出席状況、 運動の技能：各種目でのスキルの到達度 運動の知識・理解：各種目の技術の特性・構造やルールを理解度、安全に対する配慮 運動への思考・判断：自己の能力に応じた課題設定、課題解決、練習の工夫
	方法	担当教諭によるスキルテスト、出席状況、授業への取り組みなどを総合的に評価する。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	18	・器械運動 ・アルチメット ・バドミントン
期末		18	・器械運動 ・アルチメット ・バドミントン ・水泳	
2 学期	中間	21	・水泳 ・陸上競技 ・ソフトボール ・バレーボール ・バスケットボール	・水泳の課題はクロール及び平泳ぎで50m泳げるようにする。
	期末	21	・ソフトボール ・バレーボール ・バスケットボール	
3 学期	学 年 末	27	・持久走(時間走・1500m走)	・持久走は校内敷地を走る。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	2 年
教科名	保 健 体 育
科目名	体 育 ( 男 子 )
単 位 数	2
必修選択区分	必 修
使用教科書	現代高等保健体育
使用副教材	なし

組	科目担当者
全クラス	

学習の目標	1 学期	運動の合理的、計画的な実践を通して、勝敗を競う楽しさや喜び、技を高めて勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
	2 学期	競技の特性の応じて「ゴール型」、「ネット型」の運動を楽しみ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。
	3 学期	健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む能力を育てる。
担当者からのコメント	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力の育成、体力の向上を1年次に引き続き育てていく。	

成績評価	観点	運動への関心・意欲・態度：授業への取り組み、出席状況、 運動の技能：各種目でのスキルの到達度 運動の知識・理解：各種目の技術の特性・構造やルールの理解度、安全に対する配慮 運動への思考・判断：自己の能力に応じた課題設定、課題解決、練習の工夫
	方法	担当教諭によるスキルテスト、出席状況、授業への取り組みなどを総合的に評価する。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	・バレーボール、剣道または柔道
期末		12	・バレーボール、剣道または柔道、水泳	
2 学期	中間	14	・水泳、・バドミントン ・ソフトボールまたはテニス	・水泳の課題はバタフライ及び背泳ぎ(9月中旬まで)。 ・選択種目は人数が均等になるようにする。
	期末	14	・バドミントン ・ソフトボールまたはテニス	
3 学期	学 年 末	18	・持久走(時間走、2000m走)	・時間走は、校内敷地で行い10時間程度実施する。 ・2000m走は、タイムを計測する。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	2 年
教科名	保 健 体 育
科目名	体 育 ( 女 子 )
単 位 数	2
必修選択区分	必 修
使用教科書	現代高等保健体育
使用副教材	なし

組	科目担当者
全クラス	

学習の目標	1 学期	競技の特性や魅力に応じて「ゴール型」「ダンス」「水泳」の運動を楽しみ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。
	2 学期	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
	3 学期	健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む能力を育てる。
担当者からのコメント	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力の育成、体力の向上を1年次に引き続き育てていく。	

成績評価	観点	運動への関心・意欲・態度：授業への取り組み、出席状況、 運動の技能：各種目でのスキルの到達度 運動の知識・理解：各種目の技術の特性・構造やルールを理解度、安全に対する配慮 運動への思考・判断：自己の能力に応じた課題設定、課題解決、練習の工夫
	方法	担当教諭によるスキルテスト、出席状況、授業への取り組みなどを総合的に評価する。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	・テニス ・ダンス
期末		12	・テニス ・ダンス ・水泳	
2 学期	中間	14	・水泳 ・サッカー ・ダンス	・水泳の課題はバタフライ及び背泳ぎ(9月中旬まで)。
	期末	14	・サッカー ・ダンス	
3 学期	学 年 末	18	・持久走(時間走・1500m走)	・持久走は校内敷地を走る。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	3 年
教科名	保 健 体 育
科目名	体 育
単 位 数	3
必修選択区分	必 修
使用教科書	現代高等保健体育
使用副教材	なし

組	科目担当者
全クラス	

学習の目標	1 学期	2学年までの学習を基礎に、球技種目(9種目から1種目を選択)をグループ学習する。生涯体育を見据え、生徒が活動を計画・実行し評価しながら授業を進める。自己の体力や技能にあった運動を考え実施することができる資質や能力を養う。受験に備え、体力の保持・増進を図る。
	2 学期	球技種目(1学期と異なる種目を選択)をグループ学習する。授業の進め方は1学期と同様とする。生涯体育を見据え、生徒が活動を計画・実行し評価しながら授業を進める。自己の体力や技能にあった運動を考え実施することができる資質や能力を養う。受験に備え、体力の保持・増進を図る。
	3 学期	個別指導となるため、各生徒の課題を解決する。
担当者からのコメント	3学年は、男女共修とする。また、生徒自身が計画して授業をおこなうため、1・2学年以上に責任感や協調性、積極性が求められる。	

成績評価	観点	運動への関心・意欲・態度：授業への取り組み、出席状況、提出物 運動の技能：各種目でのスキルの到達度 運動の知識・理解：各種目のルールの理解度、安全に対する配慮 運動への思考・判断：活動(練習)計画の作成とその工夫
	方法	1. 担当教諭によるスキルテスト、2. 生徒による相互評価(スキルテスト)、3. レポート、 4. グループノート、5. 個人カード(反省、課題等の記録)、6. 出席状況、7. 授業への取り組み 以上を総合的に評価する。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	18	活動計画(ノート)に従って活動し、授業後に個人カードを記録し、次回の授業の際に担当に提出する。
期末		18	・スキルテスト(教諭、生徒)の実施。レポートの提出。 ・水泳(100m個人メドレー計測)	・テスト(生徒)は評価が適正になるよう指導する。
2 学期	中間	21	活動計画(ノート)に従って活動し、授業後に個人カードを記録し、次回の授業の際に担当に提出する。	・個人カード、グループノートは毎回指導する。
	期末	21	スキルテスト(教諭、生徒)の実施。レポートの提出。	・テスト(生徒)は評価が適正になるよう指導する。
3 学期	学 年 末	27	個別指導	・生徒別に課題を設定し指導する。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	1 年
教科名	保 健 体 育
科目名	保 健
単 位 数	1
必修選択区分	必 修
使用教科書	現代高等保健体育
使用副教材	なし

組	科目担当者
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

学習の目標	1 学期	健康の考え方は、社会や疾病構造の変化に伴って変化している。現状を理解し、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、自ら健康の保持増進について考え実践できるようにする。
	2 学期	生活習慣病と感染症について、原因や病態、予防法や国の対策について理解する。大脳と精神機能やストレスについて理解し、精神の健康を保つことができるような行動や思考、対応ができるようにする。
	3 学期	交通安全、応急手当について理解し、実践できるようにする。
担当者からのコメント	個人生活及び社会生活における健康・安全に関する内容を重視する観点から、単なる暗記や知識理解にとどまらず、適切な意志決定や行動選択ができるよう指導していく。	

成績評価	観点	関心・意欲・態度—健康課題について関心をもち、課題の解決に向けて意欲的に取り組もうとする。 思考・判断—健康課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 知識・理解—健康課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	方法	テスト、課題、ノート、授業への取り組む姿勢を総合的に判断する。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	6	健康の考え方
期末		6	健康の保持増進と疾病予防、応急手当	
2 学期	中間	7	健康の保持増進と疾病予防	・資料や映像を活用しながら授業を実施する。 ・他教科との関連をはかりながら授業をする。
	期末	7	健康の保持増進と疾病予防、精神の健康	
3 学期	学年末	9	精神の健康、交通安全、応急手当	・交通安全指導等との連携を図る。 ・災害時の対応についてもふれる。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	2 年
教科名	保 健 体 育
科目名	保 健
単 位 数	1
必修選択区分	必 修
使用教科書	現代高等保健体育
使用副教材	なし

組	科目担当者
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

学習の目標	1 学期	個人生活及び社会生活における健康・安全に関する理解を通して自己の健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力の育成を図る。
	2 学期	生涯にわたって健康を保持増進していくためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理と環境が重要であることを理解させる。
	3 学期	心身の健康の保持増進の実践力を育成するため、知識を活用する学習活動を取り入れ思考力・判断力などの資質や能力を育成する。
担当者からのコメント	個人生活及び社会生活における健康・安全に関する内容を重視する観点から、単なる暗記や知識理解にとどまらず、適切な意志決定や行動選択ができるよう指導していく。	

成績評価	観点	関心・意欲・態度—健康課題について関心をもち、課題の解決に向けて意欲的に取り組もうとする。 思考・判断—健康課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 知識・理解—健康課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	方法	テスト、課題、ノート、授業への取り組む姿勢を総合的に判断する。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	6	現代社会と健康 生涯を通じる健康
期末		6	生涯を通じる健康	
2 学期	中間	7	生涯を通じる健康	・定期考査は期末考査のみである。 ・他教科との関連をはかりながら授業をする。
	期末	7	生涯を通じる健康 社会生活と健康	
3 学期	学 年 末	9	社会生活と健康 1・2年のまとめ	・資料や映像を活用しながら授業を実施する。 ・学年末考査は1・2年の総復習とする。